

第6次総合振興計画の策定に向けて

図経営戦略課政策推進係 ☎72-2111

計画策定のためのサービス検証ワークショップを開催しました

市は、長期的なまちづくりの指針となる「第6次小郡市総合振興計画（計画期間：令和4～12年度）」の策定を進めています。6月27日にこれまでの10年を振り返り、今後の小郡市に何が必要か皆さんの率直な意見を聴くワークショップ「小郡市の未来を語ろう！」を、ウェブ上で開催しました。

ワークショップでは、17人の参加者からさまざまな意見が上がりました。その一部をご紹介します。



1 班

テーマ1 農業

- 「大豆」の特産品化は、非常に良い。大豆を使った人工肉は環境負荷が少なく、環境意識の高まりで需要に合う。
- 後継者不足が課題である農業は、若者に農業体験をしてもらってはどうか。

テーマ2 商業・観光

- マルシェはとても良いと感じた。100円均一市などの取組を定期的に駅前で行えば、もっと人が集まるのではないかな。
- 花立山のさらなる活用をしてほしい。

2 班

テーマ1 子育て支援

- 保育士の充実、待遇改善（給与と休暇）をしてほしい。
- 横のつながりが薄いと感ずるので、親が孤立しない支援が必要。

テーマ2 学校教育

- 地域行事への子どもの参加を積極的に支援すべき。不登校の防止策にもなる。
- 各家庭での親子の向き合い方が重要。



3 班

テーマ1 防災（治水）

- 集中豪雨で被害に遭う地域や道路などを特定していると思うので、継続的な対策をお願いしたい。
- 地域の防災リーダーの育成強化。女性の防災リーダーの育成（女性視点が必要）

テーマ2 土地利用

- 若者が地元で働ける場の確保、生産工場などの誘致を考えてほしい。
- バスや相乗りタクシーなどが普及すると暮らしやすい都市になると思う。

4 班

テーマ1 新たな感染症対策

- 市民が速やかに情報発信に気付いて、対策できるかがポイントになるので、市民への周知・連携が重要。LINEを活用した情報発信をしたらどうか。

テーマ2 高齢者福祉

- 一部の市民だけでなく、全ての世代の市民が地域課題として考える必要がある。
- ワークショップに大学生の参加もあり、これからの地域を担っていく人たちが地域に関心を持っていることが分かり、明るい兆しだと思った。

この言葉って何？



マルシェ 個別のお店がある場所に集まり、食材・日用品などを売る市場

防災リーダー 地域の自主防災組織の一員として、防災訓練への参加、地域住民への防災知識の普及・啓発などを行う人

まちづくり市民アンケート調査結果をお知らせします

第6次小郡市総合振興計画の策定にあたり、市民の皆さんの意見を把握するため、令和3年4月に16歳以上の市民2,000人を対象にアンケート調査を実施しました。

1,004人の回答(回収率50%)から分かる、小郡市に対する思いを紹介します。

また、新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)感染拡大以前の令和元年7月にも同様の調査を実施しています。今回の調査と比較することで、感染症の影響による意識の変化を把握し、第6次小郡市総合振興計画を策定するための資料として活用します。

アンケートにご回答いただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。

紹介できなかった調査結果の詳細は、市ホームページ(ホーム▶市政情報▶計画・行革・広域行政▶第6次小郡市総合振興計画)に掲載しています。



小郡市に住み続けたいか(R1調査と比較)

	今回調査	R1調査
ずっと住み続けたい	46.0%	42.6%
当分は住み続けたい	35.7%	36.5%
将来的に市外へ転出したい	8.9%	10.3%
すぐに市外へ転出したい	1.4%	0.6%

ずっと住み続けたいが3.4ポイント増加

●転出したいと回答した人の理由(上位3項目)

	今回調査	R1調査
通勤や通学が不便	13.6%	19.5%
商業や娯楽施設が少ない	16.5%	16.9%
日常生活が不便	15.5%	16.9%

まちづくりの重要度が高く、満足度が低いもの (重点的な改善が必要と考えられる分野)

※重要度、満足度を4段階評価で数値化しています

分野	重要度	満足度	重要度と満足度の差
豪雨災害への対応	3.72	2.15	1.57
新たな感染症への対策	3.64	2.24	1.40
医療体制の整備	3.63	2.43	1.20
商業	3.43	2.29	1.14
雇用対策	3.40	2.31	1.09

感染症の影響による不安(複数回答、上位3項目)

●現在の不安

本人や家族の健康(身体・心)	80.2%
医療機関のひっ迫	54.9%
感染症に関する偏見や差別	23.5%

●将来の不安

本人や家族の健康(身体・心)	80.6%
医療機関のひっ迫	58.3%
収入の減少	28.3%

感染症の収束後の変化 (複数回答、上位3項目)

健康への関心が高まる	51.1%
人が多い都市よりも自然豊かな場所に魅力を感じる	25.5%
家族と過ごす時間の重要度が増す	23.6%

感染症に対する市が取り組むべき課題 (複数回答、上位3項目)

医療機関との連携	50.6%
生活が苦しい家庭への支援	36.5%
感染症対策の市民への啓発	32.0%